

江川地図を訪問して感じたこと



岩槻秀明さん
千葉県立関宿城博物館客員
研究員・気象予報士・自然観察会講師・自然科学系フリーライター



フィールド観察の注意点

- 足場を確かめながらゆっくりと歩く
- 携帯電話などは、防水性のあるカバンの中に
- 岩場は滑るので要注意
- 枯れ枝等をよけるとき、後ろの人に配慮

江川地区でよく見かける野草



春 カワチシャ

無毛でやわらかく、葉はギザギザの鋸歯がある。5月から6月に、白色から淡紫色の花が咲き、果実はハート形



夏 ガマ

ソーセージ形をした茶色い部分は雌花で、雄花はその先。秋になると綿をほぐしたようにほころび種を飛ばす。花粉には止血剤の葉効があるといわれている



秋 ツリガネニンジン

日当たりの良い野原で見かける。春には新芽を出し、夏は茎は伸び、秋になると茎の上部に薄青色の釣鐘型の花をつける



冬 ナズナ

畑や水田などに見られる1年生の草本で、春の七草の1つ。ベンケグサ、ガラガラとも呼ばれる。秋に芽生え、冬は越冬し、早春から開花を始める

岩槻秀明さんは、趣味で野草の観察や研究を行い、野草の図鑑を出版しました。自然が大好きだという岩槻さんに、江川地区的感想を伺つてみました。

江川地区は、東京から比較的近いにもかかわらず、斜面林と湿地・水田が組みあわされた里山の原風景が残されています。私が実際に現地に行つてみたところ、人工の構造物が少なく、ダイナミックな里山の風景が広がっており、都会の喧騒を忘れてホッとできる空間だと感じました。

このような貴重な自然を保全管理して、未来の世代へと受け継がれていくことはとても重要なことだと思います。そして、江川地区に生息する多様な動植物たちが、ずっとその場で息づけるよう見守っていますね。